ISSN 1880-3164

経済学史研究

（旧 経済学史学会年報）

48-1

2006年 6月

【論　文】

〈Series: Economic Thought and Policy in the Interwar Period ⑥〉
From Menger to Polanyi: Towards a Substantive Economic Theory　Michele Cangiani　(1)

J.R. コモンズの「取引」経済学
——法的概念による制度経済学理論——　高橋真悟　(16)
J.R. コモンズにおける雇用問題と労使間のグッドウィル　加藤　健　(32)
シジウィック『経済学原理』におけるサイエンスとアート
——利己主義と功利主義の関係から——　中井大介　(46)
ピグーの『失業の理論』
——20 年代不況の理論表現として——　本郷　亮　(63)
初期ピグーの労使関係論
——『産業平和の原理と方法』を中心として——　高見典和　(78)
初期カルドアとハイエク資本理論　木村雄一　(93)

【研究動向】

〈特集：現代新古典派経済学の学史的考察②〉
成長と循環の融合——マクロ経済学史への代替的視点——　山崎好裕　(110)

【Notes and Communications】

【書　評】

経済学史学会